

2018年度（平成30年度）哲学科彙報

雑誌名	白山哲学：東洋大学文学部紀要 哲学科篇
巻	53
ページ	125-136
発行年	2019-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00010745/



二〇一八年度（平成三〇年度）哲学科彙報

一 哲学科の活動（二〇一八年四月～二〇一九年三月）

- ・第一部哲学科長に中里巧教授、哲学専攻長に河本英夫教授が就任した。（四月）
- ・哲学科准教授に松浦和也氏が、哲学科助教に高橋厚氏が就任した。（四月）
- ・哲学科教育補助員（TA）に博士後期課程在学中の寅野遼氏、藤坂大佑氏、博士前期課程在学中の石橋周都氏の三名、哲学科学生補助員（SA）に学部三年の天川優希氏が就任した。（四月）
- ・哲学科四年生の卒業論文正式題目が決定した。（五月）
- ・哲学科三年生を対象とした卒論ガイダンスを実施した。（七月）
- ・第二八回白山哲学会を一〇月二七日（土）、六号館6218教室で開催した。
- ・哲学科三年生の卒業論文仮題目届を集計、担当教員を決定した。（一二月）
- ・平成三〇年度の哲学科卒業論文の提出。（一二月）
- ・平成三〇年度の大学院哲学専攻修士論文の提出。（一月）
- ・卒業論文及び修士論文の口頭審査。修士論文は大学院で指導を担当している教員（河本、稲垣、相楽、三重野、中里）が

審査に参加して行われた。成績判定が行われ、成績に応じて各賞を決定した。（二月、二月）

二 教員の活動

中里 巧（教授）

論 文

1. 「単独者概念についての新しい解釈あるいは現代的意義」『新キエルケゴール研究』第一六号、キエルケゴール協会、二〇一八年五月、八六―九六頁
 2. 「キルケゴールのキリスト教」『北欧史研究』第三五号、バルト＝スカンディナヴィア研究会、二〇一八年一月、七九―八七頁
 3. 「レトリックと単独者とキリスト教正教―キルケゴールのキリスト教―」『理想』第七〇二号、理想社、二〇一九年三月刊行予定
 4. 「シャーマン儀礼の一種としてのキリスト教の悪魔祓い」『白山哲学』第五三号、二〇一九年三月
 5. 「神の宮―東方キリスト教会の言葉観と聖書の当該箇所―」『東洋学研究』東洋学研究所、第五六号、二〇一九年三月刊行予定
- 学会発表
1. 「キリスト教死者供養祈祷の儀礼史―K. マツカルをとおして―」（日本宗教学会第七七回

大会口頭発表、大谷大学、二〇一八年九月七日)

学会活動

役員…キエルケゴール協会理事(会長)・日本宗教学会(評議委員)・日本臨床死生学会(理事)・北欧精神史研究会(代表)

その他の活動

1. 「メディアと社会にむしばまれる子どもや若者―電子メディアの脅威と学校の再生―」(二〇一八年一〇月一三日、一〇月二十日、十一月一七日、東洋大学社会貢献センター(エクステンション課)主催)

2. 「北欧北方宗教哲学における葛藤の原理―復讐・無垢・共生の精神的ダイナミズム―」(平成三〇年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))(一般)(個人))

3. 文学部個人研究費による調査として、黒姫童話館(長野県)においてM. エンデ資料調査(二〇一八年九月一七―二十日)

教育活動

学部…「応用倫理学AB」、「総合VA」、「哲学演習Ⅱ(独)AB1」、「現代哲学特講ⅠAB」、「近世哲学演習ⅡAB」、「倫理学概論AB1」

稲垣 論(教授)

著 書

1. 『大学院…「倫理学特論AB」(博士前期課程)、「哲学特殊研究ⅡAB」(博士後期課程) 学外…「宗教学AB」(明治大学文学部)、「思想領域研究特論Ⅲ」(明治大学大学院教養デザイン研究科) 大学・学部管理運営活動 学校法人東洋大学評議員・哲学科長・東洋大学研究所運営委員・全学基盤教育小委員会委員・全学キャリア教育連絡会委員

論 文

1. 『壊れながら立ち上がり続ける―個の変容の哲学―』(青土社、二〇一八年七月)
2. 『Human: AI時代の有機体―人間―機械』(河本英夫・稲垣論編著、学芸みらい社、二〇一九年三月)
3. 「クラッシュという現象に何を見るか?」(『教室ツウエインEXT』第七号、二〇一八年五月、一三六―一三八頁)
2. 「精神科臨床のシステム論的記述の試み―精神科医の視点から」(『臨床精神病理』第三九卷、二〇一八年八月、一一一―一二四頁)
3. 「動きすぎるものたちの現象学―ポスト・

モダンの申し子とは誰のことか?」(『現代思想』第四六卷第一七号、二〇一八年一〇月、七一一―八四頁)

4. 「男性原則の彼岸へ―男の現象学はどこまで可能か?」(『現代思想』第四七卷第二号、二〇一九年一月刊行)

5. 「降りる、区切る、閉じるの経験の刷新」(『現代思想』、二〇一九年二月)

6. 「切り閉じる技術―ARAKAWA+GINSと世界原理」(『白山哲学』第五三号、二〇一九年三月)

1. 八重樫徹『フッサールにおける価値と実践善さはいかにして構成されるのか』(『実存思想論集』XXXIII、二〇一八年七月、二〇一―二〇四頁)

2. 村田沙耶香インタビュー(聞き手:稲垣論)『地球星人』の豊かな可能性描く 最新長編『地球星人』(新潮社)を語る(『週刊読書人』三二五四号、二〇一八年八月)

日本現象学会監査、日本理学療法士協会倫理委員

その他の活動

1. 「精神分析的心理療法における「症状」のゆ

くえー心理療家と哲学者の対話(二)」指定討論者(日本精神分析的な心理療法フォーラム、二〇一八年六月一七日)

2. 高橋厚(アダム・タカハシ)「経験に対する意識の〈遅れ〉」河本英夫論」司会(白山哲学会二〇一八年一〇月二七日)

3. 「認知神経リハビリテーション リセット総合討論」司会(二〇一八年二月二二日)学部:「ロジカルシンキング入門」、「クリティカルシンキング入門」、「哲学演習ⅠA BⅠ」、「問題群演習ⅢA B」、「現代哲学演習ⅢA B」

大学院:「哲学演習A B」、「哲学特殊研究ⅢA B」、「哲学研究指導ⅢA B」、「哲学研究指導ⅥA B」

大学・学部管理運営活動

自己評価点検委員、図書館委員、文学研究科委員

河本英夫(教授)

著書

1. 『哲学の練習問題』(講談社、二〇一八年四月)
2. 『システムの制作プロセスⅠ』(私家版、二〇一八年五月)

3. 『Human: AI時代の有機体―人間―機械』共

書評

論 文

編著、学芸みらい社、二〇一九年三月)

1. 「世界という現実性」(『新実在論の可能性』国際哲学研究別冊、二〇一九年三月)

2. 「鉄の途」(『エコ・フィロソフィー』Vol.13、二〇一九年三月)

3. 「青のエコ・フィロソフィー」(『エコ・フィロソフィー』Vol.13、二〇一九年三月)

4. 「仮想現実とは、どのような現実か」(『情報知能 自然』国際哲学研究別冊、二〇一九年三月)

5. 「自然知能とソフト・ロボット——科学哲学的考察」(『情報 知能 自然』国際哲学研究別冊、二〇一九年三月)

6. 「システムのバースベクティヴ」(『神経現象学リハビリテーション研究Vol.5、二〇一九年三月)

7. 「浮遊する島」(『白山哲学』第五三号、二〇一九年三月)

1. 「哲学のエクササイズ」(『本』、講談社、二〇一八年四月、四六―四七頁)

1. 「活動の哲学とオートポイエーシス」(立命館大学哲学会、二〇一八年二月二十四日、末川記念館)

概 論

学会発表

学会活動

日本病跡学会常任理事、東洋大学国際哲学研究センター長

講 演

1. 「哲学のメタモデルフォーゼ」トーク (B & B 下北沢、二〇一八年六月二十九日)

- その他の活動
社団法人SSC理事、NPO神経現象学リハビリテーション開発機構代表理事

- 教育活動
学部…「現代哲学演習I A B」、「哲学と科学A B」、「問題群演習I A B」、「論理学概論A B」

- 大学院…「現代哲学演習II A B」、「哲学特殊研究I A B」

- 大学・学部管理運営活動
大学院哲学専攻長

相 勉 (教授)

- 論 文 1. 「明治期の哲学受容再考」(『国際哲学研究』第八号、二〇一九年三月)

- 講 演 1. 「哲学」受容の背景をなす仏教文化(講演)(井上円了記念研究助成「大型研究特別支援助成」による東洋学研究所大型研究公開講座、東洋大学、二〇一八年二月二二日)

学会活動

実存思想協合理事、比較思想学会理事、東洋大学東洋学研究所長、井上円了記念研究助成

による大型研究「日本文化の背景にある仏教文化」研究代表者

その他の活動

1. 東洋大学国際哲学研究センター主催研究会「儒学者たちの日本哲学」司会（東洋大学白山キャンパス五号館一階五一〇三教室、二〇一八年九月二二日）

2. 井上円了記念研究助成による大型研究シンポジウム「日本文化の背景となる仏教文化の研究」司会（二〇一九年一月十二日、東洋大学白山キャンパス八号館地下一階八B一一教室）

教育活動

学部…「哲学基礎概説AB」、「問題群演習II AB」、「現代思想演習ABI」、「日本哲学特講AB」

大学院…「比較哲学特論AB」、「哲学研究指導II AB」（博士前期課程）、「哲学特殊研究VIII AB」（博士後期課程）

大学・学部管理運営活動

スポーツ健康委員会委員、文学部予算委員

松浦和也（准教授）

著 書 1. 『Human: AI時代の有機体―人間―機械』共

論 文

著、学芸みらい社、二〇一九年三月）

1. 「知性の離存性について」（『ギリシャ哲学セミナー論集』ギリシャ哲学セミナー、二〇一九年三月刊行予定）

2. 「人間は生まれつき知ることを欲する」のか―アリストテレス『形而上学』の最初の文について―」（『白山哲学』第五三号、二〇一九年三月）

3. 「自動運転車の事故はだれが責任をとるべきか―哲学者が考える「自動運転社会」の責任の所在」（『東洋経済オンライン』東洋経済新報社、二〇一九年二月）

4. 「乳幼児の所有意識から見た自律機械開発の諸課題」（共著、『国際哲学研究別冊』東洋大学国際哲学研究センター、二〇一九年三月刊行予定）

学会発表

1. 「知性の離存性について」（ギリシャ哲学セミナー、国士館大学、二〇一八年九月八日）

2. 「人間は生まれつき知ることを欲する」のか―アリストテレス『形而上学』の最初の文について―」（白山哲学会、東洋大学、二〇一八年一〇月二七日）

講 演 1. 「運動とそれに続くもの」（プラトン、アリス

トテレスにおける時空と運動および論証知
―新著4冊＋1博士論文書評会―、北海道大
学、二〇一八年七月二日

2. 「人工知能研究のニーズと人文学」(第二回応
用倫理・応用哲学研究会、北海道大学、
二〇一八年七月一日)

3. 「ロボットの哲学カフェ」(ロボットのための
法律・哲学・心理相談所、東京工業大学、
二〇一八年八月一〇日)

4. 「一緒につくる未来の法律―ロボットの事
故は誰のせい?―」(日本科学未来館オーブ
ンラボ、日本科学未来館、二〇一八年八月
二二日)

5. 「人工知能の何が問題なのか」(日本科学未来
館オープンラボ「一緒にさがそう未来のルー
ル―ロボットの事故は誰かのせい?」、日本
科学未来館、二〇一八年一〇月一四日)

6. 「自動運転車と人間の悪意」(自律機械と市民
をつなぐ責任概念、秀明大学、二〇一八年
十一月七日)

7. 「自動運転車・責任主体・悪意」(OPERA-RISTEX
共同勉強会、科学技術振興機構サイエンスプ
ラザ、二〇一八年十一月一九日)

8. 「教えるとはいかなる営みか(仮)」(教育と
哲学をめぐる研究会、東洋大学熱海研修セン
ター、二〇一九年二月二八日)

9. 「人工物の本質(仮)」(工学・脳科学をエビ
デンスとした社会的基盤概念と価値の創生)
キックオフ合宿、東洋大学熱海研修センター、
二〇一九年三月一八日)

教育活動

学部・「西洋哲学史概説I A B」、「中世近代
哲学演習 A B I」、「古代哲学演習 A B I」、「哲
学史 A B 3」、「哲学概論 A B」
学外・「上級ギリシャ語Ⅲ」(早稲田大学文学
部)、「論理・倫理 I・Ⅱ」(横浜国立大学経
営学部)、「哲学 A I・Ⅱ」(お茶の水女子大
学文教育学部)

大学・学部管理運営活動

ホームページ委員、グローバル化推進委員、
キャリア就職推進委員

三重野清顕(准教授)

論

- 文 1. 「シェリングとヘーゲルの対立をめぐる対話」

『ヘーゲル哲学研究』第二四号、こぶし書房

(二〇一八年十二月)、一三五―一四六頁

2. 「シェリングとヘーゲルの差異をめぐる対話」

——ヘーゲル批判への応答可能性を探る」
〔思想〕二〇一九年二月号「ヘーゲル復権」、
岩波書店（二〇一八年十二月）、一〇五一
一二二頁

3. 「解説——人「間」の倫理学へ向けて」（宇都
宮芳明『倫理学入門』解説、筑摩書房、ち
くま学芸文庫、二〇一九年二月刊行予定）
4. 「シェリングにおける人間的自由の理論——
その思想的背景」（『白山哲 学』五三号、
二〇一九年三月）

1. A・F・コッホ「中立的実在論か、解釈学的
実在論か」（『現代思想』二〇一八年一〇月臨
時増刊号「総特集Ⅱマルクス・ガブリエル」、
青土社、二〇一八年九月、一一八—一二九頁）
2. マルクス・ガブリエル「超越論的存在論と統
覚的観念論」（『新実在論の可能性』（国際哲
学研究別冊）、二〇一九年三月刊行予定）

- 書 評
1. 増山浩人『カントの世界論——バウムガルテ
ンとヒュームに対する応答』（北海道大学出
版会、二〇一五年）〔モラリア〕第二五号、
東北大学倫理学会、二〇一八年一〇月、
一一—一二頁

学会発表
1. 「運動としての絶対者——初期シェリングに

おける絶対者観の検討」（二〇一八年度早稲
田大学哲学会シンポジウム「実存の悲劇的根
拠」、早稲田大学、二〇一八年七月七日）

2. 「イエナ期フィヒテの「衝動」概念のその後
の展開——ヘーゲル哲学の形成史との関連に
おいて」（日本フィヒテ協会第三四回大会シ
ンポジウム「フィヒテの「衝動」概念をめぐ
る問題状況」、香川大学、二〇一八年一一月
一八日）

学会活動
教育活動

日本ヘーゲル学会（編集委員）

学部…「西洋哲学史概説ⅡAB」、「近世哲学
演習ⅠAB」、「哲学演習Ⅱ（独）AB3」、「ド
イツ語ⅡAAB1」、「ドイツ語ⅡAAB4」
大学院…「近世哲学研究AB」（博士前期課程）、
「哲学特殊研究ⅣAB」（博士後期課程）
学外…「ギリシャ語」（お茶の水女子大学文
教育学部）、「ラテン語」（お茶の水女子大学文
教育学部）

大学・学部管理運営活動

文学部外国語委員会、教職センター運営委員
会、文学部カリキュラム検討委員会（語学委
員会）

高橋厚（助教）

著書

1. 『ルネサンス・バロックのブックガイド―印刷革命から魔術・錬金術までの知のコスモス』（二〇一九年二月、工作舎、共著）

2. 『Human：AI時代の有機体―人間―機械』（二〇一九年三月、学芸みらい社、共著、高橋英之との共著論考「切断：人間の条件？（無能な人工知能）の可能性」を寄稿）

論文

1. 「十二世紀のルネサンス」再考：哲学・科学・知の秩序」（『西洋中世研究』第十号、二〇一八年十二月刊行）

2. 「アヴェロエス「知性論」の基本構造」（『白山哲学』第五三号、二〇一九年三月）

書評

1. 「エッセイ・レビュー」『ウィリアム・R・ニューマン』『原子と錬金術：キミアと科学革命の実験的起源』（『化学史研究』第四十五巻、二〇一八年十二月、一九九―二〇四頁）

学会発表

1. 「アヴェロエス『靈魂論』大注解」の根本問題」（日本哲学会、神戸大学、二〇一八年五月一九日）

2. 「単一の知性から遍在する神へ…アヴェロエスとライブニッツ」（ギリシア・アラビア・ラテン哲学研究会、早稲田大学、二〇一八年

九月一日）

3. 「経験に対する意識の〈遅れ〉」：河本英夫論（白山哲学会、東洋大学、二〇一八年一〇月二七日）

4. 「アヴェロエス「知性単一説」とその批判…再考」（中世哲学会、聖心女子大学、二〇一八年一月一〇日）

講演

1. 「AIは人間を裸にする…人間本性と技術との新たな関係について」（「自律機械と市民をつなぐ責任概念の策定」第五回研究会、東洋大学熱海研修センター、二〇一八年九月一六日）

2. 「知のアーカイブとは何か…スコラ自然哲学研究の現在」（東洋大学国際哲学研究センター主催ワークショップ「知のアーカイブの成立：写本研究を通して見える思想世界」東洋大学白山キャンパス、二〇一九年一月一三日）

その他の活動

1. 東洋大学国際哲学研究センター主催ワークショップ「知のアーカイブの成立…写本研究を通して見える思想世界」（東洋大学白山キャンパス、二〇一九年一月一三日）、企画・運営

教育活動 1. 講義・演習…「哲学演習I A B 4」、「哲学史

A B 1」、「社会思想史 A B」、「地域文化研究

III A B」

2. その他…「スロベニア文化研修」(二〇一九年

三月)、学生引率

三 二〇一八年度哲学科卒業論文題目一覧

抽象芸術の哲学的価値—ブランクーシと

ベクシンスキーの作品から

アリストテレスのイデア論批判は『バイドン』にて

どのような働きをするのかについて

ショーペンハウアーについて

性差別について—Xジェンダーという性自認

他者との共存について —ウイトゲンシュタインの倫理観から

共感について—共感することにより導かれた

一般化と道徳性の関係

現代的道徳とニーチェ

日本映画と韓国映画の比較—なぜ韓国映画は繁栄できたのか

いじめ加害者の心理について—仮想的有能感とその対応

球状の建築物

ジャンケレヴィッチ音楽論の射程

—『音楽が筆舌に尽くせないもの』の新たな価値と

活用可能性についての試論

「魂の三区分説」が表す社会構造

承認欲求がもたらす身体・社会的変化について。

—承認欲求を考える。

自伝という表現について

—流行りの異世界転生してみた

時間は存在するのか

ボーイスカウトと教育哲学—善い哲学とは何か

ichform

現代アートは芸術であるか—デュシャンによる

レイディメイドを中心に

愛されることと愛すること—アリストテレスの友愛について

テロを擁護することはできるか

「国旗」が持つ意味

絶望—実存研究

超人の必要性について

人生を分けるものとは

徳のリーダーシップ

安藤 彰 音

請井 春 奈

海野 瑠 里

江原 侑 太 郎

沖 真 祐

小 高 郁 哉

川 田 翔 平

金 子 風 雅

木 村 百 希

久 家 優 奈

熊 沢 亮 哉

小 見 山 卓 也

齋 藤 秀 幸

佐 藤 望 也

佐 藤 愛 美

渋谷 勇 貴

経験は教育において有効か

—放任主義の教育と型に当てはめられた教育

身体表現と自然環境

「永遠平和」について

音楽論—放任主義の教育と型に当てはめられた教育

群衆心理論—放任主義の教育と型に当てはめられた教育

IT化に伴う人類の価値

物語の自由度—白鳥物語における考察

人の創る音楽に未来はあるのか

二重思考と全体主義

精（神）を生きる

自画像

ライフセービングにおける競技の必要性

人間の暴力性—度合いとしての暴力

神についての考察

身体表現と音楽

電子メディアと人間

富の相続の制限は経済格差是正に有効であるか

人格代行ロボット

社会彫刻—有機的社会造形論

ノイズミュージックは音楽になり得るか

—ノイズは音楽に何をもたらしたか

芸術と自然の関係について

—芸術と自然の相関から見る芸術と美学

シュルレアリスムについて

—現代の日本社会を生きる人々に

シュルレアリスムの精神はあるのか

感情と身体と言語—感情を作る

日本における西洋絵画の受容について

—明治を代表とする洋画家の立場からみた受容

ヤスパースの愛について

切断される意識

—解離性障害と現象学的意識

太宰治とイエスキリスト

卒業制作（衣類）

フィクションの受容

—虚構世界にまつわる美的実践を考える

妖怪と人の関係性

幼少期の親子関係とその多様性

性的倒錯について—倒錯の人間生体学

カリスマと依存

櫻井友輝

杉野晃平

西澤大樹

水谷彩香

栗山萌々伽

川崎遥夏

橋本昂彦

安藤穂乃伽

伊庭一青

出口亮平

中村美玖

長嶺知佳

和田栞

小野佑太郎

齋藤美貴子

石塚咲里奈

心と身体―心の場所という迷宮への挑戦
正しい行いとは

エンデの思想―『モモ』から読み取る現代社会の時間

青梅市の展開と可能性

リーダーシップを発揮する人

見えない壁の突破口―動かなくなる身体、

より動く身体を求めて

哲学者の自由論―カントとミルの自由論に焦点を当てて

物語にみる人間観についての考察

―「未来のイブ」に見る登場人物達のテーマ

戦略爆撃は戦争をどう変えたのか
劇的なもの―日常に潜む劇的な瞬間。制作を通して

ユダヤ人とアイヒマン―陳腐な悪のロゴス

人工知能（AI）の感情はどのようなものか？

―将来におけるロボットと人間の関わり

価値について

BE BORN AGAIN―やれど、前へ

「無意識を意識する」ユングの哲学

GREEN―the Case of a Plant

菊地啓太

田辺啓太

番平彩香

福田尚史

星野香菜

美馬蒔葉

稲葉凜太郎

上野花琳

蟻浪ひかる

遠藤流麦

鈴木汐音

鈴木想

船山祥尚

松崎志穂

水本美玖

相田美久

差異化について―容姿差別

AIに人権は与えるべきか

時間についての考察―時間の体系

日本人の死生観について―認知症から考える安楽死問題

私の夢十夜

言語について―ウイトゲンシュタイン『哲学探究』にみる

言語の他者性

時間の連続性について―アンリ・ベルクソンの

『時間と自由』を中心に

言語の人間への影響―ヘイトスピーチと悪意の広まり

仮想現実と現実の境界線

―仮想現実の進化はどのようなものになるのか

笑いの哲学は現代の「お笑い」に通用するのか

カントにおける必然性と普遍性

スポーツの本質とは何か―スポーツの価値とは

ゲームにおけるメタ的視点の活用

他者としての自己

音楽と機械―AIは音楽を理解するのか

新井宏佳

飯嶋健太

石井稜太

梅田佳奈

上川雅史

木村真由子

菅原峻司

鮮于恩

濱中拳

藤澤陸

船橋秀人

保坂美穂

細田建也

山本直生

大澤遼也

盲目のピグマリオン

草野 絵美

日常に潜む複雑系―動的平衡からオートポイエーシスへ

安カ川 謙信

宗教と音楽の関係について―「歌う」ということ

佐々木 聖也

四 二〇一八年度修士論文題目一覧

デカルトとニュートンの運動学

韓 雨暘

ミヒヤエル・エンデ研究―子どもの心と遊びを中心に

中村 正恵

能力の形成

藤野 勇介

「広範な沸騰」としての宗教性と

「友・敵」区別としての政治性

逸見 周平

ハイデガーの芸術論と思想について

益本 衛

体系構成法への基礎づけ―四肢構造論の組み立てにおける

汪 炳堂

五 二〇一八年度開催 東洋大学白山哲学会

日時 平成三〇年 一〇月二七日 一四時三〇分から

会場 6218教室（東洋大学白山キャンパス六号館二階）

研究発表

司会…相楽勉

中村元紀（東洋大学大学院博士後期課程三年）

「ヤスパースから見たキェルケゴール」

講演一

司会…稲垣論

高橋厚（アダム・タカハシ）（東洋大学文学部助教）

「経験に対する意識の〈遅れ〉…河本英夫論」

講演二

司会…三重野清顕

松浦和也（東洋大学文学部准教授）

「人間は生まれつき知ることを欲する」のか―アリスト

テレス『形而上学』の最初の文について―

懇親会

TRES DINING（東洋大学白山キャンパス八号館一階）

その他

校友会研究奨励賞に博士前期課程の益本衛氏、学部四年生の請井春奈氏、文学部欲学奨励基金に学部四年生の相田美久氏が選出された。